

令和7年度 牧之原市議会

議会運営委員会視察研修報告書

視察日 令和8年1月21日（水）

視察先 ○長野県飯田市議会

- ・予算決算の審査について

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 加藤 彰

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和8年1月21日(水)
研 修 先	長野県飯田市議会
研修の目的	予算決算の審査について
<p>■ 飯田市の概要 ※ホームページから一部抜粋</p> <p>「りんご並木と人形のまち」として知られている。近年では、体験教育旅行や、銘桜を巡る桜守の旅、グリーンツーリズム・エコツーリズムの取り組みなども全国から注目されている。また、「学習の宝庫」と称され、大学フィールドスタディで毎年多くの学生が「飯田」を学びに訪れている。</p> <p>「環境モデル都市」に認定されている。また、飯田下伊那を圏域とする定住自立圏の中心市宣言を行い、全国に先駆けて周辺町村と「定住自立圏形成協定」を締結し、地域医療の充実や産業の振興、公共交通システムの整備など互いに連携・協力を図っている。</p> <p>「飯田」の地名は「結いの田」が語源となっており、伝統産業である「水引」に代表される「結び」に縁のある土地柄である。「結いの力」を発揮し、リニア時代を見据えた21世紀型の戦略的地域づくりを進めている。</p> <p>■ 飯田市議会の基本情報 ※視察研修資料から一部抜粋</p> <p>▷定数：23名</p> <p>▷常任委員会：社会文教、産業建設、予算決算</p> <p>▷その他：議会運営、リニア推進特別、広報広聴、議会改革特別</p> <p>▷会派：きぼう（10人）、新政いいだ（7人）、公明党（3人）、日本共産党（2人）、無党派（1人）</p> <p>■ 飯田市議会予算決算委員会について</p> <p>[説明]</p> <p>飯田市議会副議長（予算決算委員会委員長）清水優一郎 様</p> <p><u>（設置）</u></p>	

平成 30 年 12 月予算決算のあり方についての研究を目的とした『予算決算プロジェクト』が発足。以降半年間にわたるプロジェクト会議を経て、令和元年 5 月の臨時会において、常任委員会として『予算決算委員会』を設置。

(予算決算審査のあり方について (報告)) ※飯田市資料 (31 飯議第 21 号 平成 31 年 4 月 18 日) 一部抜粋

・予算決算 (案) も議案であることから、一体不可分のもので、これを分割して取り扱うことはできないとされている (行政実例 昭和 29 年 9 月 3 日自丁行発第 160 号 山口県議会議員宛行政課長回答)。

については、予算決算審査を担当する常任委員会として新たに予算決算委員会を設置し、予算決算に関する議案を付託することにより分割付託を廃止するべきである。

・予算委員会に分科会を置く。→①分野ごとの専門的な深掘りの議論。②議案全体を俯瞰した審査を行う。③行政組織を横断した政策課題への対応が可能。

(予算決算委員会設置の狙い)

これまでの委員会における取組を尊重すると同時に、現状の課題に対応し、今日的な状況変化に柔軟に対応できる体制を構築するため、新たな常任委員会として「予算決算委員会」を設置する。

↓

審査体制の検討—分割付託 (そもそも課題)

- 議案は一体不可分のものである。
- 議案の分割された部分のみに対して議員が可否を表明すること自体に疑義がある。
- 常任委員会間で採決態度が異なった場合の対処方法が不明。
- 委員会において議案の修正を行うことが困難。
- 歳入が総務委員会の所管となっていることから、委員会の所管をまたぐ議論が難しい。
- 議会全体を俯瞰した議論が難しい。

→以前は地方自治法により常任委員会への複数所属が制限されていたが、平成 18 年の法改正により制限がなくなった。

(「飯田氏議会予算決算委員会運営要綱」について)

令和元年 (2019 年) 5 月 14 日から施行。

(予算委員会の体制)

○委員会準備会 (→政策会議)

- 構成：予算決算委員長 (1)、分科会座長 (3)、各会派政策代表者 (5)。
- 機能：予算決算委員会の運営及び分科会の開催。議会における政策調整機能。

- 開催：全体会開催前及び分科会の前後に開催。必要に応じて開催。

○分科会

- 構成：3 常任委員会単位の分科会を置く（会議規則第 95 条を適用）
- 名称：総務分科会、社会文教分科会、産業建設分科会
- 審査：採決は行わない。疑義のある点等は議員間自由討議を活用し、論点を明確にして議論を行う。

(予算決算委員会の審査方法)

- 議会運営委員会→政策会議→本会議→委員会前期全体会→委員会各分科会→政策会議→委員会後期全体会→本会議→政策会議

(政策会議とは)

飯田市議会政策会議運営要綱 令和 6 年 6 月 21 日 議会運営委員会で決定。

- 目的：飯田市議会における議案の分野別又は包括的な審議の充実及び政策的な課題への対応を図るために設置する。

(構成) 副議長、常任委員長、各会派からの選任議員《9 名＋議長 (オブザーバー)》

(所感)

この度の研修を踏まえて、次のとおり、検討事項（一部）を列記する。

- 予算・決算に関する議案の分割は廃止する。
- 予算決算審査にあたっては、常任委員会として予算決算委員会を設置する。
- 予算決算委員会に分科会を置く（総務建設部会・文教厚生部会）。
- 構成は、副議長、2 つの常任委員会正副委員長＋2 つの常任委員会からの選出議員各 1 人。計 7 人（＋議長はオブザーバー）。
- 審査日程及び手住については、従前どおりだが、予算・決算連合審査の前後に合同分科会、分科会を実施。
- 議案説明、説明資料は、従前どおり。
- 本年 9 月定例会では新しい形で審査を行う。
- 本年 6 月定例会に関係条例等議案を提出する。

牧之原市議会運営委員会において議長の所信表明等を踏まえて、議会実行計画を策定し、その中で予算決算審査の充実に関して検討する旨を明記した。この度の視察研修内容を踏まえて着実に予算決算審査の充実を図っていきたい。

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 松下 定弘

研 修 名	令和7度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和8年1月21日(水)
研 修 先	長野県飯田市議会
研修の目的	予算決算の審査について
<p>長野県飯田市概要 長野県内の南側に位置し、面積：658.66㎡、人口：93,643人、世帯数：40,434世帯、（令和7年11月現在）財政：令和6年決算（一般会計）歳入：560億1,763万円、歳出：551億3,268万円</p> <p>飯田市議会概要 市議会定数：23人 政務活動費一人当たり年額140,000円 常任委員会 ・総務委員会（8人）・社会文教委員会（7人）・産業建設委員会（7人） ・予算決算委員会（22人）・議会運営委員会（8人） 他、リニア推進特別委員会（7人）・広報公聴委員会（10人）・議会改革推進委員会（8人）会派あり</p> <p>視察目的 牧之原市では、予算・決算審査が一議員の努力に依存しており、議会全体で財政を共有し、政策形成につなげる体制がもう少し必要と感じた。 今回の視察を通じ、他自治体では「全議員参加型の審査」や「分科会方式による専門的審査」が確立され、議会のチェック機能と政策形成力の向上に寄与していることを確認した。これらを踏まえ、牧之原市議会でも財政審査体制の強化を図る必要がある。</p> <p>現状の課題 視察を通して、牧之原市では審査の議会全体で共有が不十分と感じました。また、翌年度に予算が十分に反映しているのか。住民への説明責任など、分野別に踏み込んだ質疑が必要と感じました。</p>	

視察で得た知見

- ・全員参加型による方式で、議会全体で財政状況を共有し、透明性を確保している。
- ・分科会方式により、教育・福祉・建設など分野別に専門的な審査が可能
- ・予算決算を一体的に審査することで、政策形成サイクルが強化
- ・事務事業評価の導入により、翌年度予算への反映が明確化
(牧之原市でも評価表はあるが、飯田市は内容が充実していた。)

牧之原市として導入(提案)

- ・特別委員会として試行
⇒全議員を委員とする「予算・決算特別委員会」を設置
⇒財政情報の共有と議論の場を確保
⇒審査手法を試行し、課題を把握する
- ・分科会方式の導入
⇒総務建設・文教厚生など分野別に分科会を設置
(委員会に付託議案として行っているが、双方をまたぐ事案案件の充実化)
⇒専門的な審査を行い、委員会全体会で集約
⇒議員負担を分散しつつ審査の質を向上
- ・第三段階： 常任委員会化の検討
⇒必要に応じて条例改正を行い、恒常的な財政審査体制を確立
⇒決算審査の結果を翌年度予算に反映する政策サイクルを定着

期待される効果

- ・財政審査の専門性・精度向上
- ・議会全体での財政共有による透明性向上
- ・住民への説明責任の強化
- ・事務事業評価の充実と政策形成力の向上
- ・議会改革としての信頼性向上

総評

視察を通じ、財政審査を議会全体で行う体制の重要性を再確認しました。

牧之原市議会においても、全議員で議論し政策形成につなげる仕組みを構築すべきではないかと思いました。

段階的導入により負担を抑えつつ、効果的な財政審査体制を整えることが可能であり、議会の信頼性向上に繋がると考えます。最後に、議会事務局への負担を掛けない工夫も必要であり、検討すべきであると思いました。



長野県飯田市議会視察風景

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 _____ 谷口恵世 _____

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和8年1月21日(水)
研 修 先	長野県飯田市議会
研修の目的	予算決算の審査について
飯田市議会 視察報告書（予算決算常任委員会） 1. 視察目的 飯田市議会における予算決算常任委員会の設置経緯および運営体制、特に総合計画の進行管理や行政評価への議会関与の在り方について調査し、今後の牧之原市議会における予算決算委員会設置の参考とすることを目的に視察を行った。 2. 制度導入の背景と課題認識 飯田市議会では、「第5次基本構想基本計画」から「いいだ未来デザイン2028」へ移行するにあたり、総合計画と予算審査をより一体的に捉える必要性が高まった。 その中で、 <ul style="list-style-type: none">①予算の分割付託による全体像の把握の難しさ②総合計画の進行管理や行政評価への議会関与の弱さ といった課題が認識され、審査体制の見直しが検討された。 3. 予算決算委員会の設置と体制 これらの課題を踏まえ、令和元年5月14日より「飯田市議会予算決算委員会運営要綱」が施行され、予算決算委員会が設置された。 (1) 委員会構成 <ul style="list-style-type: none">委員：議長を除く全議員22名委員長：副議長副委員長：3常任委員会の委員長の中から選出 (2) 政策会議の設置 <ul style="list-style-type: none">構成：副議長、常任委員長、各会派から選任された議員、議長（オブザーバ	

一)

4. 審査方法と流れ

飯田市議会では、以下のように段階的な審査プロセスを採用している。

議会運営委員会 → 政策会議 → 本会議 → 予算決算委員会 前期全体会 → 各分科会 → 政策会議 → 後期全体会 → 本会議 → 政策会議

このように複数のステップを設けることで、論点・争点の整理と意見集約を丁寧に行う仕組みとなっている。

5. 政策会議の役割

政策会議は、予算決算関連議案に限らず、その他の議案も含めて論点・争点を明確化し、政策的課題に対応するために新設された組織である。

主な役割は以下のとおりである。

- 定例会ごとに全議案について事前説明を受け、委員会審査前後の調整を行う
- 協議結果を踏まえ、必要に応じて各常任委員会を開催し、詳細な論点整理と議員間討議の準備を行う
- 議案以外の政策課題についても、会派や委員会と連携し、企画立案や協議・調整を行う
- 課題解決に向け、通年を通して必要に応じ随時開催し、政策サイクル全体をマネジメントする

6. 牧之原市議会への示唆

今回の視察を通じ、牧之原市議会においても、今後予算決算委員会を設置し、論点や争点を事前に明確化した上で審査を行うことが、政策サイクルのマネジメント効率化につながると考えられる。

予算決算委員会方式を採用することで、段階的な審査と意見集約が可能となり、より実質的な議論が期待できる。一方で、既存の連合審査会における当局の負担が過度に増加しないよう配慮しつつ、まずは可能な範囲から取り組むことが重要である。

議会側としては、勉強会や協議の機会が増えることで、より質の高い討議を重ねていくことが求められる。

また、視察の中で飯田市議会の正副議長から「会派のない議会では修正案をどのように提出するのか」との質問があり、責任ある議決を行うためには、牧之原市議会においても会派の役割や必要性について改めて検討する必要性を感じた。

以上の点を踏まえ、飯田市議会の先進的な取り組みを参考にしながら、牧之原市議会に適した予算決算委員会の在り方を検討していきたい。

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 名波 和昌

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和8年1月21日(水)
研 修 先	長野県飯田市議会
研修の目的	予算決算の審査について
<p>◆従来の審査方法</p> <ul style="list-style-type: none">・一般会計予算（当初・補正）ともに分割付託・歳出は所管部局が所属する委員会・歳入は特定財源のみ所管する部局が所属する委員会、その他は総務委員会 ⇒付託部分は各常任委員会でも可否を採決し、本会議で委員長報告 <p>※本来は予算決算ともに議案であり「一体不可分」のもので、分割して取り扱うことはできないとされている。</p> <p>◆従来の審査方法に疑義があり、平成30年12月に予算決算審査検討プロジェクトを設置し、改善案を検討し、令和元年5月から「飯田市議会予算決算委員会運営要綱」を施行。</p> <p>◆議長を除く全議員による「予算決算委員会常任委員会」を設置</p> <ul style="list-style-type: none">・委員会準備会・分科会 <p>を設置し、審査を進める方針とした。</p> <p>さらに、審査の過程に「政策会議」を開催し、論点整理、分科会の経過確認、委員会の反省等を行う。また、政策会議は各委員会の横ぐしになる特性もある。</p> <p>◆まとめ</p> <p>分科会での審査方法に、牧之原市としての工夫が必要であると考えているが、常任委員会を設置し、全議員が審査できる体制に切り替えていく必要性をあらためて</p>	

痛感した。また、飯田市の場合は会派性を採用していることから、この点についても工夫が必要と考える。

いずれにしても、連合審査方式が悪いわけではないが、事前の内容確認（行政当局報告など）は、必要である。

当市における有効な審査方法を協議し、早急な移行を進めていくことが必要である。

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 木村正利

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和8年1月21日(水)
研 修 先	長野県飯田市議会
研修の目的	予算決算の審査について
<p>視察研修について 事前に飯田市議会における予算決算の審査について資料にて確認してあったが、改めて、議会事務局、竹村議長、清水副議長より説明を受けた。 飯田市議会予算決算の審議について要点をまとめると、</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「予算決算常任委員会」を置くのか<ul style="list-style-type: none">● 委員会中心主義を徹底し、行政評価・議会報告会起点の政策提言も常任委員会中心で進めている● 人口減少・少子高齢化・財政難などで、行政は「組織横断型」の政策展開へ（いいだ未来デザイン2028／戦略バスケット方式）● 議会側にも「専門性の深掘り」だけでなく、全体俯瞰＋横串の議論が必要になった → そこで「予算決算委員会」を新設し、分割付託を廃止する提案2. 現状課題（分割付託の構造的な弱点）<ul style="list-style-type: none">● 予算・決算は議案として一体不可分なのに、分割して扱うこと自体に疑義● 委員会ごとに採決態度が割れた場合の扱いが不明● 修正が困難／所管を跨ぐ議論が難しい／全体俯瞰が難しい → 「分割付託」では、総合判断と政策提言につながりにくい3. 仕組み<ul style="list-style-type: none">● 委員会は 議長除く全議員（22人）で構成、議選監査委員も決算審査に参加● 分科会を置く（総務・社会文教・産業建設 等）● 委員会準備会（委員長、副委員長、座長、会派政策代表者）が<ul style="list-style-type: none">○ 論点整理／日程調整／分科会間調整／政策調整 を担う	

- 審査手順が明確：
 - 前期全体会→分科会（討論採決なし）→準備会（調整）→後期全体会（討論・採決、必要に応じ自由討議）

4. 行政評価・決算→次年度予算へつなぐ

- 行政評価を所管事務調査に位置付け
- 分科会＋準備会＋全体会で議員間共有 → 提言へ
- 決算で出た意見を取りまとめ、必要に応じ 附帯決議→翌年に執行部へ回答要求
 - 決算審査が“翌年度予算”に反映される設計になっている

飯田市議会では、1. 予算決算委員会の意義についての議論がなされ、2. 現状課題の抽出を行い3. 仕組みづくりを実施し4. 行政評価・決算を次年度予算につなぐところまで実施していることが良く理解できた。

牧之原市の現状についての私的見解としては

- 当局説明が議場中心で、その後の審査が「個人質疑の積み上げ」に留まる
 - 議会全体として論点を共有し、争点を整理して政策判断する仕組みが弱い
- 基本条例（第8条）に基づく説明の充実を提案しても、運用として定着しない
 - “個人の努力”ではなく、委員会運営ルールとして制度化しないと動かない
- 飯田市は「準備会」で論点整理・意見調整を“手続き”に埋め込んでいる

{所感}

牧之原市では、当局からの説明が本会議（議場）で行われた後、審査は各議員による個別質疑を中心に進み、議員間討議を経て論点を整理し共有する仕組みが十分に機能していないと感じてきた。予算審査の在り方については牧之原市議会基本条例第8条の趣旨に基づく説明の充実等を提案してきたが、この4年間、制度運用としての改善には至っていない。

今回の視察では、飯田市議会における「予算決算委員会（常任委員会）」の設計と運用、とりわけ委員会準備会による論点整理・意見調整の手続きが制度的に組み込まれている点が極めて示唆に富み、予算決算審査を“議会全体の政策判断”へ高める有効な手法であると認識した。

牧之原市としての方向性的私見

本市においても、分割付託や所管の壁により議案全体を俯瞰した議論が行いにくい現状を踏まえて

- ① 予算決算審査の体制の見直し
- ② 審査前の論点整理・議員間調整を行う仕組みの制度化
- ③ 決算審査・行政評価の結果を次年度予算へ反映させる手続き（提言・附帯決議・フォローアップ）を検討すべきである。

特に、審査プロセスの中で**議員間自由討議**を位置付け、**少数意見を含む合意形成**を前提とした議会運営を設計することが、議会のチェック機能及び市民への説明責任を高める鍵になると考える

最後に、本市においても、審査前に論点整理を行う場（準備会相当）を制度的に位置付け、資料要求・確認を含めて争点を共有した上で委員会審査に臨む仕組みを検討すべきである。

視察研修報告書

牧之原市議会議長 様

氏名 _____ 石山和生

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和8年1月21日(水)
研 修 先	長野県飯田市議会
研修の目的	予算決算の審査について

各事業の評価を議員間で詳しく意見交換ができる場があると感じた。飯田市の場合は、意見交換の場は会派で行っていたが、牧之原市が会派性をとっておらず、意見交換の場を作るとしたら、常任委員会か特別委員会を作る必要があるのだろうと感じた。しっかりと、議員同士の意見交換の場が公式にあることは重要だと思うので、参考に牧之原市に取り込むのは重要だと感じた。

私自身は事務事業評価を議員に共有していることが、その議員間の意見交換に素晴らしく重要だと思った。これがあることで事前に、詳しく意見交換できるからだ。行政の負担が増えたとしても、私は事務事業評価を議員に共有することは重要だと思う。

視察研修報告書

牧之原市議会副議長 様

氏名 原口 康之

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会 議会運営委員会視察研修
研修の期間	令和8年1月21日(水)
研 修 先	長野県飯田市議会
研修の目的	予算決算の審査について
<p>長野県飯田市議会の予算決算の審査について、議会運営委員会全員(議長を含む)と、事務局、前田局長、浅井次長2名計9名で、視察研修を行った。</p> <p>一般的には、予算決算審査において会派別に焦点や重点をまとめ審査を進め、次年度の予算について、意見、提言することを目的にして行うようだ。</p> <p>会派については、牧之原市議会として改選前から出来る規定に基づき実施について検討してきたが、今回の視察研修で、会派は、無くても、所管である総務建設委員会と文教厚生委員会を基に予算決算委員会を立ち上げ勉強会や審査が出来る事が確認されたと思う。これから視察研修のふり返り等、意見交換をしてまとめていけると考える。</p> <p>今回の視察研修で、飯田市議会の竹村議長をはじめ議会義務局の多忙を極める中での丁寧な対応に感謝を申し上げます。また、導入に向けてのアドバイスと共に、応援のエールを頂き、予算決算についての議会改革の道筋が見えてきたと感じた。</p>	